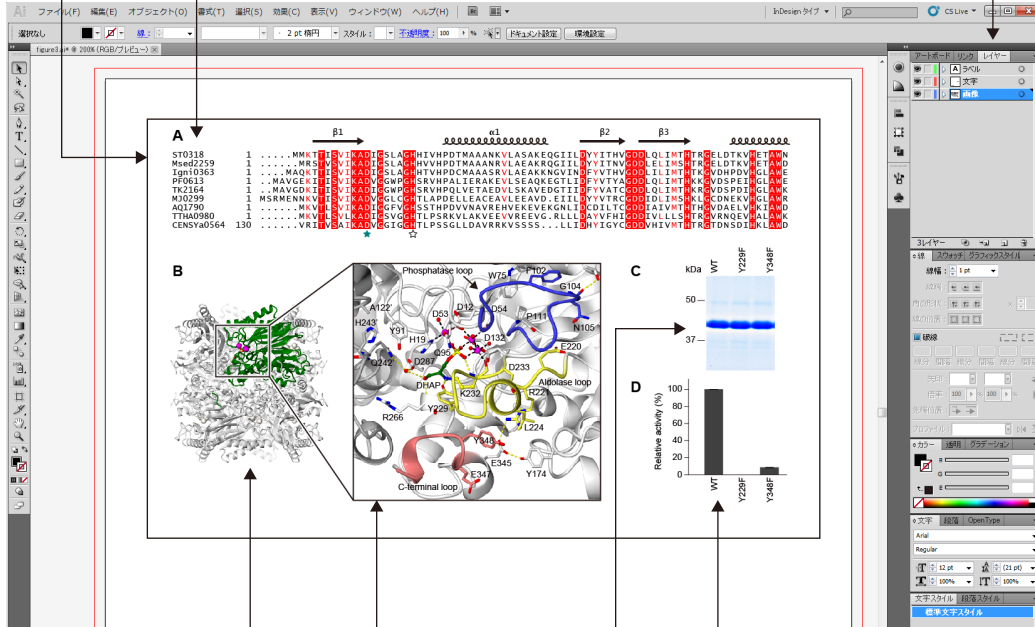


- ・カラム幅のボックスを表示しておく、図の大きさがわかりやすい（この場合は2カラム幅 18 cm）
- ・各パネルは 7-8 pt の文字を入れてちょうどよいくらいの大きさがいいだろう

- ・元画像、文字などを別レイヤーにすると編集しやすい

- ・アライメントはラスタ画像 (TIFF、PNG、JPEG) として保存したものを Illustrator に貼るのではなく、ベクタ画像 (EPS、PS) として保存したものを Illustrator で編集すると加工しやすい仕上がりがよい



- ・元画像はこの大きさに 300 dpi 以上になるようにレンダリングしておく

- ・グラフはラスタ画像として保存したものを貼るのではなく、ベクタ形式として保存したものを Illustrator で編集すると仕上がりがよい
- ・ここでは、Excel からグラフをコピー&ペーストし、不要なバスの削除、全体の大きさの調整、文字や線の調整を行っている
- ・複雑なベクタ画像のグラフは Illustrator 上でラスターライズしラスタ画像にすると、ファイルサイズが小さくなり扱いやすくなるかもしれない

- ・ゲル写真はこの大きさに 300 dpi 以上になるようにスキャナで取り込んでおく
- ・自然物写真の元画像は TIFF 形式よりも JPEG 形式の方がファイルサイズが小さく扱いやすい
- ・元画像は Photoshop などでトリミングしてもよいが、Illustrator 上でクリッピングマスクを用いてトリミングするより編集しやすいかもしれない

図 3 Adobe Illustrator で図を作る